

「午前3時59分」

植松厚太郎

【登場人物】

役者の人数は六人とする。縦に並ぶ登場人物は同一の役者が演じる。

(女) 匂坂 (さきさか) 桜子、女5、女6、女7、女8、女9

(男) 新井場、男6、奥田

(女) 泉、女2、女3、女10

(男) 倉岡、男1、男3、男5

(男) 志賀、男2、男4

(女) 向井、女1、女4、鳥

どの役者が演じるかを明快にするため、各登場人物の初出時には(桜子)のようにその役者が演じる主要な登場人物の名を補足するが、いずれの場合においても両者は同一人物ではない。

【衣装の想定】

特に言及のない箇所は時間・場所を問わず、全員バスターミナルのアルバイトのユニフォーム(ウインドブレーカー、ブルゾン、パーカなど)と想定。ユニフォームとしての現実的な体裁を保ちつつ、一定の抽象性を感じさせるものが望ましい。

一 (ターミナル)

電話の呼び出し音が鳴り出す。

東京都内、午後十時ごろ。夜行バス(高速路線バス)の乗り場が集約された、

小規模のターミナルエリア。舞台上は、その管理事務所内である。

中央に事務テーブルがあり、その真ん中に置かれた固定電話が、ポテトチップスの袋の陰で鳴り続けている。二十代半ばの男(倉岡)と三十歳前後の女(向井)が椅子に座っているが、男はテーブルに顔を伏せ、眠っている。女は週刊誌をぼんやりと読んでいて、やはり電話に出る気配はない。

鳴りやまない電話。

ややあって女は一通り読み終えたのか、週刊誌を閉じてテーブルの上に放り出す。電話の方に目をやり、一つ溜め息をついてから手を伸ばし、受話器を取る、と見せかけて、手はその上を越えてポテトチップスの袋をつかむ。袋を手元に寄せて封を開け、食べ始める女。咀嚼音。鳴りやまない電話。

向井 倉岡君！。

倉岡 ……。

向井 倉岡君！、出てよ！、爆睡すんなよ。

倉岡 ……。

向井 ねえ倉岡君！！

突然、三十代半ばほどの男（新井場）が物凄い勢いで部屋に入ってきて、受話器を取り上げる。

新井場

はい西東京ターミナル！ はい、あ、奥田さん？ 新井場です。（卓上メモを取りながら）はいお疲れ様……ええ、いいですよ……はい、こっち着が五分遅れ、じゃなくて十分？ どっちですか。（壁時計を見て）十分ですね。はい、はい、分かりました。奥田さん、最近よく遅れますね。まあ勿論、奥田さんだけのせいじゃないですけども……。あの、くれぐれも安全運転でお願いします……：はい、はい（受話器を置く）。

（二人に向かつて） N三十五便舞浜発大阪行き、十分遅れ。

向井

はい。

新井場

はい、じゃない。

向井

え？

新井場

おい倉岡、起きろ。（起きないので揺すって）おい、起きろこの野郎。

倉岡

（目を覚まして）え、何、もう休憩終わり？

向井

（倉岡と目が合って）おはよ。

倉岡

あ、おざす……。 （壁時計を見て）え、てかまだ全然じゃないですか。え、新井場さん、何かあったんですか？

新井場

（二人に）いいですか、そもそも今は、休憩ではありません。待機です。電話が鳴ったらすぐ取って、どのバスは何分遅れそうとか、予約の誰々がキャンセルだとか、そういう都合を聞き取って、その都度外立ちの人に引き継いでください。てか向井さんはもう長いんだから分かってるでしょ？ 違うわ、今明らかに面倒臭がってましたよね？

向井

いやだって、ちようど取ろうと思ってた時に、急に来たから。

新井場

じゃあ、なんですか。（向井の声をまねて）ねえ倉岡君！、って取ろうとしてたんですか？ 聞こえてましたからね。そんな出方ありますか？ これ（電話）は、倉岡っていうんですか？

倉岡

あの、俺の話ですか？

新井場

違うよ。

倉岡 え、俺じゃない倉岡ですか？  
新井場 違うって。  
倉岡 ……え？  
新井場 ……え？ あの、だからね……  
向井 あの、分かりましたから。次からはちゃんと出ます。  
新井場 え、なんでそんな態度なんですか。おかしくないですか。  
向井 いや、出るって言うてるじゃないですかー。そんなこと言われたって、じゃあどうすれば、

再び電話が鳴り出す。

新井場 ……はい、お願いします。  
向井 いや今は（新井場さんが）。  
新井場 え、なんで？ なんで？  
向井 だって、近いじゃないですか。  
新井場 関係ないですよ、そんな。え、電話一本そんなに面倒ですか？  
向井 たまに変なのいるんですよ、思いつきり中国語とか……あ、新井場さんほら、社員さんじゃないですか。  
新井場 関係ないでしょう。  
倉岡 向井さんって、基本やる気ないっすよね。  
新井場 お前が出てもいいんだからな？  
倉岡 いや、この流れで俺が取るのは違うでしょう、ねえ。  
新井場 ……もうね、これは三人の持久戦ですよ。  
倉岡 持久戦？  
新井場 私は絶対取りませんからね。

しばしの沈黙。鳴り続ける電話。

倉岡 何ですかこの時間……。これ、いつか終わるんですか？  
新井場 終わるんじゃない、終わらせるんだよ、君たちが！  
倉岡 てかこれ、三人の持久戦っていうか、三人と（電話を指差して）かけてる人の持久戦ですよね。  
向井 確かに確かに。  
新井場 そんなことは、ないよ……。  
倉岡 いや、そうでしょ。今、向こう絶対凄いや顔してますよ。  
新井場 そう思うんだったら早く出なさいよ、そのための待機なんだから！

倉岡 いや、てか、もし今が休憩じゃなかったら、俺ら休憩ゼロってことになりますけど。

向井 そうだよ、訴えようよ。

倉岡 あー新井場さん、死刑ですよ。

新井場 うるさい。真面目に働いてから言え。

倉岡 でもね、休憩なしはまずくないですか。

新井場 二人いるんだから交互に休憩できるだろう。そういう配置にしてるんだよ。

倉岡 (向井に) さっきそんな言い方でした？

向井 違ったよね。

新井場 何でもいいから！ どっちでもいいから、さっさと電話を取って……

いつの間にか電話が切れている。

三人 あっ。

倉岡 ……俺たちの勝ちです。

向井 うわ、やった。

倉岡 何が勝因ですかね？

向井 やっぱチームワークじゃね？

新井場 お前ら、大事な電話だったらどうす……

再び電話が鳴り始める。

三人 あっ。

突然、二十代前半の女(桜子)が物凄い勢いで部屋に入ってきて、受話器を取り上げる。

三カ月前である。

桜子 もしもし……。あ、もしもし、あの、私、匂坂桜子と言います……。あの、アルバイトの募集を見て、お電話しました……。はい、西東京ターミナルの……。あ、面接、はい、いつでも大丈夫です。

桜子、受話器を置く。面接中である。

桜子 あの、匂坂桜子と言います。よろしくお願いします……。あの、はい、東京には出てきたばかりで、だからまだ地名とか、あまり分からないんですけど……

。それは、あの、こっちに来る時に夜行バスで来て、誘導で立ってる人を見かけて、こういう仕事もあるんだなあと思って、それで、たくさんの人がこう、行ったり来たりするところで働くというのが、なんだかあんまり寂しくなくて素敵だなあと思つて……。寂しくないは、ちよつと違うかな……。はい、あの、だいたいいつでも大丈夫です。はい、平日、土日どちらでも……。明日から？ はい、もちろんです！ 頑張ります、よろしく願ひします！

新井場が、桜子の頭を新聞紙で引っぱたく。現在である。

新井場  
おい。

桜子  
はい？

新井場  
何の電話？

桜子  
はい、あの、(卓上メモを見ながら) 次の富山行きに乗る予定の隅田さんがキャンセルしたいと……

新井場  
そんな汚い字で読めんの？

桜子  
え？ あの……はい、確かに、

絶対間違つてないんだな？ 間違つたら責任取るんだな？ まあ取れないけどな。

桜子  
……すみません。

新井場  
(再び引っぱたき) 丁寧に書けつて何度言つたよ。

桜子  
ごめんなさい。

新井場  
早く持ち場戻れよ。

桜子  
はい……。

桜子、出て行く。

新井場  
(向井と倉岡に) いいですか、電話はちゃんと取つてくださいね。

新井場、出て行く。

倉岡  
(卓上メモを見て) うーん、全然汚くないと思うけどな。ねえ、向井さん。

向井  
だつて言いたいただけもん。

倉岡  
新井場つてホント、弱い人には全力ですよ。

向井  
左遷されて溜まつてるんですよ。

倉岡  
なんか新井場つて、新婚らしいですよ。

向井  
そうなの？

倉岡 いきなり飛ばされて奥さんどう思ってるんですかね。  
向井 そういうやつね。  
倉岡 桜子ちゃんも災難ですよね。  
向井 言い返さないのが悪いんだよ。  
倉岡 ……桜子ちゃんって、でももう三カ月くらいでしたっけ。  
向井 じゃない？  
倉岡 あれ、地元どこでしたっけ？  
向井 あ、どこだったかな。田舎の方だったと思うけど。  
倉岡 大学生。  
向井 なの？  
倉岡 あ、いや、大学生でしたっけ。  
向井 分かんない。  
倉岡 それでこっち出てきたんじゃないんですかね。  
向井 あんまり聞いた覚えはないなあ。  
倉岡 じゃあ、なんで？  
向井 知らない。  
倉岡 謎ですね。  
向井 まあ、あんまり興味もないけどね。  
倉岡 向井さん、メモ汚いって怒られたことあります？  
向井 私メモ取らない。  
倉岡 ……。  
向井 あ、電話も取らない。  
倉岡 ……先輩、さすがっす。  
向井 そう？  
倉岡 ぶっちゃけ、どっちか電話取ってればあんなことにはならなかったんすけどね。  
向井 ……。  
向井 まあ、でも、私たち休憩中だから。  
倉岡 そうそう、休憩だから…。（壁時計を見て）あ、でももう休憩終わりっすよ。  
向井 えー、だる…。（顔を伏せる）。

## 二（過去）

夕日と蝉しぐれが、寝起きの脳にだんだんと認識されていくように、ゆっくりと濃く、大きくなっていく。テレビから聞こえてくる雑音。その雑音を上塗りするように、甲子園のサイレンが響く。

数年前、夏。ある田舎の、ある喫茶店。

男1（倉岡）が、天井のすぐ下に備え付けられた小さなテレビを見上げている。

女1（向井）がその隣で、テーブルに顔を伏せて眠っている。

男1  
おい。

女1  
（眠っている）

男1  
おい、起きろ。

女1  
うーん……。

男1  
終わったよ。

女1  
え……どうだった？

男1  
負けたよ。二回戦負けだな。

女1  
あ、そう……。

男1  
てかなんで寝てんの？

女1  
なんで……。勉強疲れ？

男1  
死ね。

女1  
誰かが寝かしてくれなかったから。

男1  
嘘つけ。よく寝てたわ。

女1  
そうだったけ？

男1  
そうだよ。

女1  
いつ寝たか、よく覚えてない。

男1  
じゃ、すげー寝てんじゃない。

女1  
え？ そっか。……いや、だってね、興味ないから。

男1  
なんでよ。興味あれよ。

女1  
別にうちの高校じゃないし。

男1  
県の代表だろうが。

女1  
全然地域違うじゃん。

男1  
それでも応援するもんなんだよ。

女1  
田舎くさ。

男1  
田舎じゃねえか。

女1  
えー。

男1  
……なんか、あれだな。甲子園とかに出るような連中とタメになっちゃったんだな。

女1  
だから？

男1  
見る目変わんね？

女1  
どういうこと？

男1 だから、あー、やってんなあ、ってならね？  
女1 意味分かんない。  
男1 いや、だって無理じゃん、あんなの。  
女1 元から無理だから。  
男1 そういうことじゃねえんだよな。  
女1 私のコーラ来てなくね？  
男1 マジで？ あのババア……。

ドアベルの音。私服姿の桜子が入ってくる。

男1 桜子……。え、なんで？  
桜子 こんにちは……。  
女1 誰？

男1 匂坂桜子って、ちょっとした後輩で、後輩っていうか……え、俺？  
桜子 うん。

男1 そりやそうか。いやいやいや、だって、え？ なんか言ってたっけ？  
桜子 たまたま通ったら、いたから……。  
男1 マジかよ……。

桜子 ちょっとだけ……。  
男1 いや、こっちだつてさ、

女1 いいよ。私、タバコ買ってこようと思ってたし。  
男1 えー、ホントに？ マジごめん。

女1 全然いいけどさ、向かいのタバコ屋、別に大丈夫だよな？  
男1 うん。緩い緩い。

女1 了解。

男1 マジごめん。後で死ぬわ。  
女1 じゃあ、地獄で死ぬ。

女1、出て行く。ドアベルの音。

男1 座ったら？

桜子 ……。

桜子、席に着く。

桜子 ……前から付き合ってるの？



男1 何が？

桜子 今の人。

男1 ……。

桜子 ちよつと、外から見てて……。

男1 あ、そう。暑くない？

男1 ……。

桜子 ……分かった。もうここ終わりにしよつか。な？

男1 え？

桜子 いいよ、俺は終わりで。ありがとな。

男1 別れるってこと？

桜子 まあ、もう会わないようにしましよつてことだな。

男1 そんな、いきなり言われても……。

桜子 だってね、そんな、ストーカーみたいなことされたらこつちだつてさ、なんだ

男1 よつてなるよ、それは。でしょ？

桜子 ストーカー？

男1 ストーカーじゃん。

桜子 だから、たまたま通つたんだつて。

男1 一緒だよ。

桜子 一緒じゃないよ……。え、一回ちゃんと話そうよ。

男1 もういいよ。

桜子 お願いだから。

男1 いいつつつてんだろ。

桜子 ……。

男1 いいか、よく聞けよ。例えばこのまま、お互いの言い分がずっと平行線だとするだろ。でも俺は別にそれでいいんだよ。お前は俺に会いたいけど、俺はもうお前には会いたくない。で、会うのは二人とも会いたくないとできないけど、会わないのはどっちか一人が会いたくないと思えばできちゃうの。分かる？だから俺は、会わないことを今ここで一人で決めたの。それでおしまい。俺とお前は平等じゃないの。俺はお前に納得してほしいとか、お前と分かり合いたいか、そんなことは最初から思つてないの。

桜子 ……うん、分かりました。

男1 はい、お疲れ様でした。

桜子 ねえ、分かったから、最後に聞いていい？

男1 何？

桜子 私たちつて、付き合つてましたよね……？

男1 ……どうだかね。なんかよく分かんなくなつちやつたよ。

桜子　じゃあ、付き合ってたんですか？

男1　どうだかね。

桜子　じゃあ、今までいろいろしてきたことは全部、付き合ってたなくてもすることな  
んですかね？

男1　……。

桜子　付き合おうって言うてくれたのは……。

男1　なんか、あれだな。桜子、お前、本当に面倒臭いな。

桜子　（立ち上がって）ごめんね、ありがとう。迷惑かけてごめんなさい。さような  
ら。

桜子、退場。ドアベルの音。

男1　かったる……。

三（ターミナル）

電話が鳴り始める。再び現在のターミナル。

二十代前半ほどの男と女が入って来る。男は志賀、女は泉である。

泉　おつかれーす。

志賀　交代でーす。

倉岡　んー（だるい）。

泉　いやいや倉岡さん、なんで出ないんですか。

倉岡　だってもう交代じゃん。

泉　（外を指して）じゃあ交代してくださいよ。

倉岡　ちよっと待ってって。

志賀　（受話器を取って）はい、西東京。はい、はい……。

倉岡　あ、てか（二人を指して）泉さんって、志賀ちゃんと小中学校一緒なの？

泉　え、何で知ってるんですか？

倉岡　いや、この前志賀ちゃんに聞いてさ。偶然だね。

泉　別に言う必要ないのに。

志賀　え、いいじゃないですか。（受話器に）あ、こっちの話です。なんでしたっけ？

倉岡　え、何個違いだっけ？

泉　私が二個上です。

倉岡　そんなもんか。

志賀　ちなみに部活も一緒です。

倉岡　へえー、そうなの？  
志賀　（受話器に）あ、こっちの話です。  
泉　だからさー。  
倉岡　何部？　あ、ちょっと待って、当てるわ。  
泉　バスケットです。  
倉岡　……あ、そう。  
泉　ま、今はただの大学受かんない人（志賀）と就職受かんない人（泉）ですけどね。  
倉岡　うわ、負け組コンビじゃん。  
泉　でも倉岡さんだって別に勝ってないでしょ。  
倉岡　俺の戦いはこれからだから。  
泉　もう終わってるでしょ。  
倉岡　馬鹿、これから売れるんだよ。  
泉　てかまだ解散してなかったんですか？  
倉岡　してないよ。この前キーボードが実家帰ったけど。  
泉　うわあ……時間の問題……。  
倉岡　は？  
志賀　（受話器を切っている）なんか中央道渋滞してるんですか？  
泉　そうなの？  
志賀　ちよつと遅れ出るみたいですよ。  
泉　ふーん。  
志賀　てか、また奥田さんですよ。  
倉岡　遅れ田さん、また遅れた。  
泉　遅れ田さん乗る路線いつも遅れんな。  
志賀　ついこの前も遅れてましたよね。  
泉　あーなんか新井場言ってたわ。  
志賀　確かこの前は事故渋滞で、その前は大雨で、更にその前は酔っ払いが乗って来ちやっつてどうこうって。  
泉　ひどいな。  
倉岡　遅れ田さん、最近テンションおかしいからね。  
志賀　まさにまさに。  
泉　なんか、振り切れちゃってるよね。  
倉岡　そもそもね、働きすぎなんだよ、あれ。

桜子、少し入って来る。

桜子 あのこと……。  
倉岡 ごめんごめん、今行くから。  
桜子 はい……。  
志賀 あ、そうだ匂坂さん、忘れないうちに。  
桜子 何ですか？

志賀、財布から二万円を取り出し、桜子に渡す。

志賀 とりあえず、これ。  
桜子 あ、ありがとうございます。  
志賀 あとはもうちよつと、(待ってもらって) いいですか。すみません……。  
桜子 あ、はい……。

桜子、二万円をポケットにしまつて出て行く。

倉岡 志賀ちゃん……。  
志賀 なんですか。  
倉岡 なに今の？  
志賀 え？  
倉岡 買春？  
志賀 ああ、違いますよ。え、そんな訳ないじゃないですか。借りてたんですよ。まだ返し切れてないんですけど。  
倉岡 志賀ちゃん、金なの？  
志賀 ボートレース、始めたらはまっちゃったんですよ。  
倉岡 え、志賀ちゃん、何歳だっけ？  
志賀 僕、もう二浪中ですから。で、この前誕生日だったんで。  
倉岡 あ、そっか。ならオーケーっしておい、勉強は？  
志賀 もう本番次第ですから。  
倉岡 そういうもんなの？  
志賀 そういうもんですよ。  
倉岡 へえ。でも、一番金のなさそうな人から引っ張るって、エグいね。  
志賀 だって、貸してって言ったらいいですって言うから。  
倉岡 うわ、さらつと言うね。志賀ちゃん、ひもの才能あるよ、ひも。  
志賀 そんなことないですよ。  
倉岡 あるって。  
志賀 倉岡さん、ひも理論って知ってますか？

倉岡 知らない。

志賀 物理学の理論なんですけど、原子とか素粒子とかっていう小さい物質を更に分解していくと、最後には小さなひもになるって言われてるんです。つまり、この世のあらゆるものは、物凄く小さなひもがたくさん集まってできてるんです。

倉岡 あー……、え？

志賀 まあ、つまりみんなひもってことです。

倉岡 ようは、志賀ちゃんはひもなんでしょ？

志賀 だから、倉岡さんもひもですね。

倉岡 俺もひもなの？

志賀 はい。

倉岡 ……へえー、不思議ー。俺ひもなんだ、へえー。ちょっと待って。え、よく知らないけど、その理論ってのは、ちゃんとした理論なわけ？

志賀 今はちよつと研究が先に進んでるんですけどね。

倉岡 あ、そうなんだ。

志賀 今は超ひも理論って言うんですよ。

倉岡 超ひも！？

志賀 はい。

倉岡 マジで？

志賀 マジです。

倉岡 え？ じゃあ何、志賀ちゃんは超ひもの？

志賀 だから、倉岡さんも超ひもです。

倉岡 俺、超ひもの？

志賀 はい。

倉岡 マジで？ すげー。え、(俺)超ひも？

志賀 はい。

倉岡 (志賀ちゃん)超ひも？

志賀 はい。

倉岡 (俺)超ひも？

志賀 はい。

倉岡 俺のこと馬鹿にしてんのか！

志賀 え？ いやいやいや、別に馬鹿にしてはいないですよ……。

倉岡 ふざけてんのかお前。

志賀 え、急に機嫌悪くならないでください……。あ、ちなみに英語では、スーパー

・ストリング・セオリーっていうんですよ。

倉岡 ……スーパー・センチンス・スプリング？

志賀 違います違います……。

倉岡 え、でも志賀ちゃん今言ったじゃん。

志賀 全然言ってるじゃないです。

倉岡 え、そう？ まあ、あれだな、やっぱ志賀ちゃんはひもの才能あるっぽいわ。

志賀 才能があるかは知りませんけどね。でもね倉岡さん、親切に貸すのが好きなやつにはいくらでも借りたらいんですよ。そう思いませんか？

倉岡 志賀ちゃんって、急に怖いこと言うよね。

志賀 でもやっぱり、返してもらっただけで「ありがとう」って言っちゃう人は、そりゃいくらでもってなりますよ。

倉岡 そんなこと言ってた？

志賀 言ってみました。

倉岡 志賀ちゃん、敵に回したくないわー。

志賀 でも倉岡さんだって、お金の受け渡し見たらすぐ買春みたいな発想はどうかと思えますけどね。

倉岡 いや、俺は別にそうだなと思って聞いたわけじゃないから。

志賀 そうですか？

倉岡 だって、お金なんか払わなくてもね、あんなの、ちょっと酒でも飲ませてやってちゃえばいいんだよ。

志賀 ……なんか、倉岡さんの方がよっぽどひどいと思いますけどね。

倉岡 そう？ てかまあ、もう一回チャレンジしたんだけどね。

志賀 え？ 匂坂さんに？

倉岡 え？ いやだからこの前さ、ちようどそういう気分だったから、バイト終わってからちよつと誘って、五時までやってる居酒屋行って、そんでってマジですか。

志賀 うん。まあ、流石にすぐには、うまくいかなかったけどね。

倉岡 倉岡さん、やっぱりひどいですよ。

志賀 そんなに？

いつの間にか、新井場が立っている。

新井場 倉岡！

倉岡 はいはい、行きます、行きますよ。てか新井場さん今日いたんですか。

新井場 最初からいたわ！

倉岡、新井場、出て行く。

泉はいつからか、スマートフォンをいじっている。

志賀 あれ、先輩、スマホ変えました？  
泉 ー、変えてないよ。  
志賀 先輩、そんなスマホでした？  
泉 違うよ。  
志賀 え？  
泉 私のじゃないもん。  
志賀 え、じゃあなんで？  
泉 「そこにスマホがあるから。」  
志賀 ……ん？ え、誰のなんですか。  
泉 あの子のじゃない？  
志賀 匂坂さん？  
泉 うん。見る？  
志賀 見ちゃっていいんですか？  
泉 待ち受け、インコだよインコ。  
志賀 うわ、本当だ。可愛い。飼ってるんですかね。  
泉 ギャラリーもね、インコの写真ばかり。  
志賀 匂坂さんって、そういう系だったんですね。  
泉 いくつか消しちゃった。  
志賀 ……ええ？ なんで？  
泉 なんとなく。ほんのちよつとだけよ。  
志賀 何か恨みでもあるんですか。  
泉 別に恨みなんかないけどさ。面白いかなと思って。  
志賀 面白って……。泉さん、昔から全然変わらないですね。  
泉 そう？ まあ、ソシヤゲみたいなもんだよ。インコ消し。どう？  
志賀 いや、普通に引きますね……。  
泉 でも志賀君だつて金取ってんじゃない。  
志賀 いや、僕は一応借りてるだけですから。  
泉 返す気なくせに。  
志賀 ありますって。  
泉 いや、ないでしょ。  
志賀 ありますよ……。  
泉 だいたい何がひも理論だよ……。

いつの間にか、桜子が入って来ている。

泉・志賀 あ。  
桜子 あの……。  
泉 (スマホを置きながら) どした？  
桜子 ボールペンが切れちゃったんで……。  
泉 あ、そう。じゃあこの辺の使ったら？  
桜子 すみません。  
泉 あ、ごめん、桜子ちゃん、スマホ一瞬見ちゃった。待ち受けだけけど。  
桜子 あ、いえ、いいですよ……。  
泉 (待ち受けを見せて) 桜子ちゃん、インク飼ってるの？  
桜子 あ、はい。こちらに来る前からなので、もう結構飼ってます。  
泉 可愛いね。  
桜子 可愛いですよね！  
泉 ……あ、うん、可愛い可愛い。  
桜子 トリ子って言うんです。  
泉 トリ子？  
桜子 鳥の子でトリ子です。子供のころに付けたので、ちょっと変な名前なんですけど。  
泉 ふーん……。 (志賀を見る)。  
志賀 なんですか。  
泉 いや……。 (桜子に) へえー、そうなんだ。  
桜子 はい (外に出ようとする)。  
泉 ねえ、もつと写真ないの？  
桜子 写真ですか？  
泉 見せてよ。  
桜子 いいですけど……。 (外を気にする)。じゃあ、終わってから、大丈夫だって。今日、あんまり客いないでしょ。  
桜子 そうですか……。 (スマホを操作して) あれ？  
泉 どうしたの？ なんか変？  
桜子 いや……。なんでもないです。ええと……。はい (見せる)。  
泉 うわ、めっちゃ可愛いー。え、どんなところが好きなの？  
桜子 え？  
泉 具体的にさ。  
桜子 ええと、こう、手に乗せたりもできるし、色も綺麗だし、いい匂いもするし、こう、首をちょっとかしげる感じとか、たまにダンスみたいなのをする時とかもあって、それがもう、大好きなんです……。  
泉 へえー、可愛いね。(志賀に) ほら。



志賀 そつすね。インコってことは、喋れたりするんですか。

桜子 それが、おはようしか言えなくて……。

志賀 おはよう。

桜子 はい。おはよう、おはようって。

泉 ああ、よくいるアホなインコだ。

志賀 失礼ですよ、そんな。

桜子 いや、でも本当にそうですから……

新井場が入って来て、桜子の頭を引っぱたく。

新井場 何、サボってんだ！

桜子 すみません！ 今戻ります。

桜子、退場。

新井場 ったく……。

新井場、残って書類をチェックしている。

志賀 (泉に) タチ悪いっすね。

泉 何が？

志賀 なんかもろもろ。

泉 そうかな。

志賀 そうですよ……。でも、匂坂さんって何しに東京出てきたんですかね。

泉 え、何で？

志賀 いや、この前倉岡さんに聞かれて、あーそういえばって思っ。

泉 まあ知らないけど、都会に来る理由なんてだいたい相場あるでしょ。

志賀 相場？

泉 だから、歌うか、踊るか、弾くか、描くか……。

志賀 あー、相場。

泉 あとは、まあアフレコするか……。

志賀 アフレコ？

泉 いや、今アフレコ界凄いらしいよ？

志賀 あんまりアフレコ界って言わないんじゃないですかね。

泉 あとはまあ、シンガーソングするとか？

志賀 ……シンガーソング「する」ってなんですか？

泉 いや、だからシングしてシングするんですよ。  
志賀 シングしてシングするって、一緒じゃないですかね。  
泉 だってシンガーソングライターって言うじゃん。  
志賀 だってあれはほら、シンガーソングを、ライトするってやつでしょ。シンガー  
泉 ソングってなんだ？  
志賀 ……。  
志賀 ……あれ？ シングをソングでライト？ じゃなくて、シングのライターでソ  
泉 ング？ ん？ ソングライターが…？  
志賀 君って意外と馬鹿だよな。  
泉 いやいや、こんなはずじゃなかったんですけど…。ま、まあ何にせよ、匂坂  
志賀 さんにはなんかどれもしつくり来ませんね。  
泉 パツとしないもんね。  
志賀 まあ…。  
泉 だいたい東京なんて結局人が多いだけだしね。  
志賀 そうですよな。あ、新井場さん、知ってます？  
新井場 何が？  
志賀 匂坂さんのこと。  
新井場 知らないよ。  
志賀 資料とかないんですか？  
新井場 あるわけないだろ。だいたい、こんなバイトもろくにできないで夢のある話さ  
れたって困るわ。  
志賀 頑張ってるじゃないですか。  
新井場 何がだよ。というか君らも大して変わんないからね。もうさ、手の抜き方に人  
間性が出るんだよな。浪人と？就職浪人か？ 大したもんだな。  
志賀 泉さんは現役ですよ。  
新井場 でもまだ決まらないんですよ？ だってもう今の時期…  
泉 (舌打ち)  
新井場 なんだ？  
泉 (目を合わせず) 思いっきり左遷された人がなんか言ってるなあ。  
新井場 なんだと？  
泉 (目を合わせず) 電車の親会社からバスの子会社に飛ばされた人がなんか言っ  
てんなあ。  
新井場 言いたいことあるならちゃんと目を見て言いなさいよ。  
泉 え、面と向かって言っ方がいいんですか？  
志賀 まあまあまあまあ。  
泉 ……。

新井場 ……電話はすぐ取りなさいよ。

新井場、奥の部屋へ退出。

泉 くだらな。

志賀 何の話してましたっけ。あ、匂坂さん。

泉 匂坂桜子ねえ……。

#### 四（過去）

女2（泉）が、遠くに呼びかける。

女2 さっさー。さっさー。……さっさー（手招き）。

制服姿の桜子が出てくる。

高1の春、放課後の、校門前である。

桜子 私？

女2 そうだよ。決まってんじゃん。

桜子 さっさ？

女2 え、さっさでしょ？ 匂坂桜子でさっさ以外くない？ あれ、中学で何て呼ばれてたの？

桜子 中学？

女2 あ、桜子の方をもっと生かす感じだ。可愛いもんね。あ、桜だからチェリーとかじゃない？ 英語でさ、あるよね。

桜子 中学は……あんまりあだ名とかなかったかな。

女2 あ、そうなの？ 微妙だね。みんなそういうノリだったの？

桜子 ある人はあったけど、私は……。

女2 何？

桜子 ううん、なんでもない。

女2 やっぱさ、あだ名のセンスでその中学のセンスってだいたい分かっちゃうから。ダサイのも駄目だし、名前にちゃん付けばっかとか、そういう置きに行つてるところはもう論外ね。あ、一応言っておくけどチェリーは私のセンスじゃないからね。そうかなーと思って、当てにいった結果だから。チェリーは駄目でしょ。やっぱサンリオっぽいしね。あとチェリーボーイみたいだしね。

桜子 チェリーボーイ？

女2 またまたー。行くよ。  
桜子 え、どこに？  
女2 ……私の自己紹介、聞いてた？ 最初のホームルームの。  
桜子 え？  
女2 私は聞いてたよ。さっさの自己紹介。  
桜子 うん。  
女2 結論を言うのだ、たぶん電車の方向一緒だよ。だから、一緒に帰ろ。  
桜子 ……うん！

男2（志賀）がそばに立っている。

男2 二人とも寄り道するなよー。  
桜子 あ、先生。さようなら。  
女2 先生ー、明日の数学でいきなり小テストって本気ですか？  
男2 本気だよ。まあ中学の復習だから、そんなに身構えなくてもいいよ。  
女2 いやいや、中学でやったことなんて春休みで綺麗さっぱり消えちゃってますか  
ら。（桜子に）ねー。  
桜子 うん。  
男2 だったらなおさら確認しておかないとな。高校数学は甘くないからな。  
女2 えー……。  
男2 気をつけて帰りなさい。  
女2 はーい。  
男2 匂坂さんも。  
桜子 はい。  
男2 うん。

男2、退場。歩き出す二人。

女2 でもさ、まずは彼氏作らないとね。  
桜子 彼氏？  
女2 さっさ、彼氏いるの？  
桜子 私？ いないよー。  
女2 マジで？  
桜子 いたこともない。  
女2 え、ヤバくない？ じゃあ、どっちが先にできるか競争ね。  
桜子 え、うん。

女2 でも、正直うちのクラスはハズレだよ。

桜子 ハズレ？

女2 え、じゃあ当たり？ 誰がいる？

桜子 うーん。

女2 じゃあハズレじゃん。

桜子 まだ、みんなどういう人か分かんないし……。

女2 さっさはい子だな。

桜子 そんなことないよ。

女2 あー、いっそ別の学校探すかなー、文化祭とかでさ。あれ？ てかさ、やっぱ

うちの制服地味じゃない？

桜子 そうかな。

女2 圧倒的不利じゃん、これ。(ブレザーやスカートをいじる仕事) もう思いつき

紺、紺って感じじゃん。

桜子 うーん、確かに。

女2 もうね、ほぼ江戸時代ですよ、こんなの。

桜子 江戸時代……江戸時代？

女2 いやいや、そこツッコまないと！ ツッコミ待ちだから！

桜子 あ、うん、ごめん。

女2 ……あ、じゃあ私ここで(電車)降りるから。

桜子 あ、うん、またね。

女2 今日から友達ね、私たち。

桜子 うん！

女2、退場。

桜子 今日はありがとう。明日も友達でいてください。お昼一緒に食べよう。移動教

室あったら一緒に行こう。健康診断まで、一緒にダイエット頑張ろう。そうやって、半年たっても、一年たっても、ずっとずっと、友達でいてください！

再び、女2登場。一年後。

女2 さっさ、お昼買ってきてー。

桜子 え？

女2 お昼。分かるっしょ。パンでもおにぎりでも。

桜子 はい。えっと、お金……

女2 あ、何買ってくるかはさっさのセンスに任せるわ。でも気に入らなかったら買

い直しね。あ、昼休み終わるまでに買って来れなかったら罰ゲームだから。嘘嘘、食べる時間とかあるからやっぱ5分前までにしよっか。あ、リエとヒトミとミサの分もだから、四人前。

……。

何？　なんかある？

……いや。

女2　じゃあそんな顔すんな。私たち屋上にいるから。階段はダッシュね。これクリアの秘訣だから。よろしく。

女2、去りかけて振り返り、

女2　あ、忘れないうちについておくけど、今日終わったら駅の向かいの商店街集合ね。あそこのスーパー行くから。

桜子　スーパー？

女2　うん、スーパー。

桜子　……。

女2　逃げんなよ。

女2、退場。

男2、化粧品をもって登場。化粧品をテーブルに置き、席に着く。  
スーパーの事務所。

男2　匂坂ー。

桜子　……はい。

男2　なに盗ってんだよ。

桜子　……。

男2　校内放送で職員室呼ばれてよ、何かと行って行ったら「先生、万引きです」……。いる先生方みんな白い目で見てくんの。何してんだよって感じでさ。俺思うんだけどさ、先生方もみんな本当は分かかってんだよ、こんなのもらい事故みたいなものだって、所詮はろくでもない生徒に当たるか当たらないか、そういうのおおみくじみたいなのだってことは、みんな分かかってるんだよ。それなのに、せめて憐れんだ目を向けるとか、心配してくれるとか、そんなのはほとんどいないんだよな。教師というものの偽善だか潔癖だか知らないけどさ、そういう何かが咄嗟に他人事（ひとごと）みたいな態度を取らせるのかね。しかもさ、これで次帰った時には、何人かは今度はあからさまに同情してくるんだ。同僚じゃなくて生徒を見るような目でな。二重の偽善だよ。やってらんねえよな

桜子 。俺はおみくじが外れただけなのになー。  
ごめんなさい……。  
男2 勘弁してよ。  
桜子 もうしません……。  
男2 言い訳はないか？  
桜子 ……あの、  
男2 悪いと思ってるなら、言う通りに頭下げて、言う通りに反省文書け、な。  
桜子 ……。  
男2 ついて来い。  
桜子 ……はい。

桜子、男2、退場しかける。

### 五（ターミナル）

電話が鳴り始める。再び現在のターミナル。  
志賀、戻って来て受話器を取る。  
桜子はそのまま退場。

志賀 はい、西東京。あ、奥田さん、お疲れ様です。え、遅れ田さんひよっとしてまた遅延ですか？ え？ あ、遅れ田さんって言っちゃった。嘘です、すみません、えーと……あ、そうなんですか？ へー。今どこですか？ 大津つてどこでしたっけ？ あ、滋賀。分かりました。伝えておきますね。大変ですね。はい、はい、お疲れ様です。

新井場、外から入って来る。

新井場 ちょっと、向井さんまだ？  
志賀 あ、新井場さん、今電話あつて……。  
新井場 とりあえず待って。ちょっと向井さん。

向井、奥の部屋から出て来る。

向井 はい。  
新井場 はいはいじゃないですよ。何分遅刻だと思ってるんですか。  
向井 （時計を見て）えーと……。

新井場 何分遅刻かを聞いてるんじゃないんですよ。

向井 え？

志賀 あ、向井さん、これ（化粧品）向井さんのですか？

向井 いや？ 忘れ物とかじゃない？

新井場 それ今いいでしょ。向井さん、ちよっとはやる気出してくれないと困るんですけど。

向井 ちよっと寝坊しちゃって。

新井場 昼間寝てるんですか？

向井 割と。

新井場 だったらもっと早起きしてください。どうせ目覚ましギリギリにかけてるんですよ。今より一時間早くセットしてください。

向井 一時間早く起きたら、一時間無駄に長く支度しちゃうんです。

新井場 はあ？

向井 ギリギリに起きれば起きるほど、効率良く支度できると思って。

新井場 ……向井さん、何分遅刻だと思ってるんですか？

向井 ……。

新井場 今度はね、何分遅刻かを聞いてるんです。分かりますか？ 一時間ですよ一時間。だったら一時間早く起きて何か無駄なことがあります？ 私これでも最低限の事しか言っていないと思うんですよ。

桜子、入って来る。

桜子 あの……。

志賀 あ、向井さん来ました来ました。

新井場 （桜子に）ちよっと待ってる。

桜子 あ、はい……。

新井場 （向井に）分かりました。一旦謝りましょう、ね。話はそれからです。

向井 そう言われると、言いづらいですよ。

新井場 ……また持久戦しますか？

桜子 ……持久戦？

志賀 あ、匂坂さんすみません、長く立ってもらっちゃって。僕でもよかったんですけど。

桜子 いえ、大丈夫です。

志賀 あ、あと、この前のお金、もうちよっと待ってもらえませんか。

桜子 あ、はい。いいです。いいですけど、できるだけ早めに……

志賀 あ、というか、一旦もうちよっと貸してもらえたらと思ってるんですけど。後



でいいんで。

桜子 えーと……、はい、大丈夫です……。

志賀 ごめんなさい。

桜子 いえいえ……。

志賀 あ、さっき奥田さんから電話あって、ビックリですよ。途中で整備不良で止まっちゃったんですって。

桜子 え？

新井場 ……え？

志賀 なんか、エンジンのウォーターポンプ？のベルトが切れちゃって、高速のど真ん中で立ち往生してるんですって。修理も利かないかもしれないって。さすがにウケないですか？ 遅れ田さん、せめて遅れてくださいよ！って感じですよ（笑う）。今日倉岡さんいたら爆笑してたと思いますよ。

新井場 おい。

志賀 はい。

新井場 なんだって？

志賀 いや、だから、奥田さんのバスついに止まっちゃったって話です。

新井場 お前それなんで早く言わないの？

志賀 いやいやいや、言おうとしたら待ってって言ったじゃないですか。

新井場 なんで主張しないんだよ。

志賀 え、僕が悪いんですか？

新井場 え、どうするんだ、これ……。

桜子 こんなことあるんですか？

志賀 たまにあるみたいですよ。

向井 じゃあ私、働いてきまーす。

向井、退場。

新井場 ……あの人はいつもあんな感じなの？

志賀 いや、前はもっと生き生きしてたと思うんですけどね。

新井場 なんだ？ 男にでも振られたか？

志賀 あ、そういえば前よく話してた人、どうなったんだろう。

新井場 おいおい、当たっちゃったよ。

志賀 いや、分かんないですけど、駄目だったのかな。

新井場 どのいつもこいつも……てか、え、警察も出てんの？

志賀 あ、はい。もう高速上で客降ろしちゃったんですって。

新井場 なんだよ……。

志賀 NEXCOも来てるって言ってましたよ。

桜子 これって、乗ってる人はどうなるんですか？

志賀 とりあえずタクシーで近くのサービスイリア行って待機ですね。で、バスはレッカー移動して、整備会社呼んで修理して……、あれ、修理できなかったらどうするんだろう。

新井場 駄目なら代わりのバス手配して、それも都合つかなかったら新幹線の始発に乗ってもらうんだよ。で、あとで詫び入れてちよつと多めに返金するんだよ。

桜子 へえー。

志賀 新井場さん、勉強してますね。

新井場 うるさい！ 畜生、この対応マニュアルとかあったか？

志賀 さあ。

新井場 ないわけないだろう。

志賀 でも別にやることないんじゃないですか？ むしろ明日の朝一台来なくなるんだから仕事減りますよ。

新井場 折り返しはどうするんだよ。

志賀 そういふのこそもつと偉い人が決めますよ……。

新井場 そうやって何でも人任せにするから駄目なんだよ。

志賀 新井場さん、張り切ってるどころ申し訳ないですけど、ただのバス停ですよ？  
ここ。

桜子 あの……。

桜子、テーブルに置いてある化粧品に気づく。

桜子 これ……。

志賀 ん？ あ、これ、匂坂さんの？ 匂坂さん……匂坂。なに盗ってんだよ。匂坂さん、これ匂坂さんのですか？

桜子 あ、いや……。

男3（倉岡）、登場。

男3 おい！

桜子 倉岡さん？

男3 どうなってるんだよここはよオ。

桜子 今日お休みじゃ……。

新井場 あの、申し訳ありません。こちらは誘導員用のスペースになってまして、お客様の立ち入りはご遠慮いただいでるんですが。

桜子 え？

男3 いや、なんか来たらバス行っちゃってたんだけど、なんで？

新井場 あの、基本的には一分でもお待ちできないんですよ。時間通り来ていただけないと。

男3 いやいやいや、おかしいでしょ、そんなの。は？

女3（泉）、登場。

女3 え、何？ どうなってんの？

桜子 泉さん……。

男3（女3に）なんか知らねーみたいなこと言ってくんだけど。

女3 は？ なんで？

男3 知らね。

新井場 いや、ですから、

男3 桜子、お前、本当に面倒臭いな。

女3 逃げんなよ。

桜子 え？ なに……。

志賀（男3と女3に）まあまあ、とりあえず外でお話しましょうか。ね、それがいいですよ。はい、行きましよう行きましよう。

男3 おい、ふざけんなよ。

女3 え、何、マジないんだけど。

志賀、男3、女3、出て行く。すぐに男4（志賀）、入って来る。

男4 あのー、すみません。

桜子 はい？

男4 ここに、財布の落とし物とか届いてないですかね。

桜子 財布？

男4 いや、この前ここからバスに乗って、降りる時にはなかったんです。で、バスの中は網棚とか前ポケットとか全部確認してもらって、どうやらバスにはなさそうだったことで、もしかしてこちらに届いてないかなと思っただけなんですけど。あの、茶色の革製で、折り畳み式なんですけど、桜子、お前本当に知らない？

桜子 え？

新井場 財布の落とし物は最近届いてないですね。

男4 あ、そうなんですか……。

新井場 財布は今時、なかなかね……。

男5（倉岡）、登場。

男5 ちよつと、ここの係の人いる？

桜子 は、はい。

男5 クレームの受付は？

桜子 あの、志賀さんは……。

男5 志賀？

男4 どうするかな、財布……。

桜子 あの、一緒に出て行った係の……。

男5 いやいやいや、今来たんだけど。

桜子 え？

男5 だから、おたくの客がそこら中にゴミを捨ててね、近所迷惑だつてことをね、  
言いに来たんだよ、桜子。

男4 やっぱりもう見つからないかな……。

新井場 そうですね。ごめんなさいね。

男4 いえいえ、全部、桜子のせいですから。

男5 とりあえずさあ、裏回って見てみなよ。

男4 ありがとうございます。

男4、男5、退場。

桜子 え？

男6（新井場）が桜子に声を掛ける。

男6 桜子。

桜子、振り向く。

六（過去）

桜子の実家で、男6が桜子に語り掛ける。

男6 なあ、桜子。トンビがタカを生むということわざを知っているか？ お父さん

、そのことわざが好きでね、座右の銘にしているくらいなんだ。でもね、辞書に載っていることわざが全部正しいとは限らない。だって、たまにことわざ同士で矛盾していることがあるだろう？ 正しいのは、カエルの子はカエルの方だったんだな……。大丈夫！ 心配することはない。たとえお前がカエルだったとしても、オタマジャクシからあれだけ変化したんだから、その更に先がないなんて誰が言い切れる？ きっとその緑の背中から翼が生えて、大きなガマ口は嘴に変わって、水掻きは鋭い爪になって、大空を舞う立派なタカに……。桜子、父親が憎いか？ 俺はお前が憎い。俺に新しい世界を見せてくれなかったお前が憎い。桜子、人をそんな恨んだ目で見てはいけないよ。だって全てのことはお互い様なんだ。お前は周りの人々に何か応えてやれたのか？ いいか、桜子。お前は俺から逃げられない。俺もお前から逃げられない。互いに失望し続けるこの世界に外なんてない。全ては井戸の中の出来事なんだよ……。

男6、退場。女4（向井）がいつの間にか立っている。

女4　ごめんね、桜子ちゃん。お母さん、この家を出て行くことにしました。  
桜子　え、なんで……。なんでよ、お母さん……。

七（ターミナル）

再びターミナル。向井、桜子。

向井　桜子ちゃん……桜子ちゃん。  
桜子　あ、向井さん……。  
向井　体調悪いの？  
桜子　いえ、大丈夫です。  
向井　そう。  
桜子　……。  
向井　桜子ちゃんって、志賀君に貢いでるの？  
桜子　え？  
向井　いや、さっきさ。  
桜子　あ……いや、そんなんじゃないです。  
向井　じゃあ何？  
桜子　……貸してはいます、たまに。  
向井　ちゃんと返してもらってる？  
桜子　なんか、割と一度に返してくれたりするんです。

向井 それは、じゃあちゃんと計算して、全部返ってきてるの？  
桜子 ……まあ、だいたい……。  
向井 ふーん。なんだっけ、競艇だっけ？  
桜子 なんか、はい、らしいですね。  
向井 志賀君もろくでもないなあ。  
桜子 まあ……。  
向井 新井場も、倉岡君も泉ちゃんも、みんなろくでもないなあ。  
桜子 ……。  
向井 もちろん私もね。  
桜子 そんなことないですよ。  
向井 え、何そのフオロー。  
桜子 ……すみません。  
向井 どうでもいいけどさ、競艇つてのがまた、斜に構えてる感じしない？  
桜子 はい？  
向井 だって、普通は競馬とかパチンコじゃないの？ そこ敢えて競艇行く？ 一応  
向井 あるのかな、やっぱ、得手不得手とかさ。  
桜子 ……人を信じたいからじゃないですか？  
向井 え？  
桜子 馬とか機械じゃなくて。私、なんだか分かる気がします。  
向井 ……桜子ちゃんつて、結構面白いね。  
桜子 すみません。  
向井 でも私は助けられないよ。  
桜子 ……。  
向井 助けたくても助けられない。だって、人に人は助けられないから。  
桜子 ……はい。  
向井 ま、頑張つて。  
桜子 ……お先に着替えてきます。

桜子、奥の部屋に退場。

#### 八（桜子の家）

少しの間後、鳥（向井）が語り出す。桜子の家である。

鳥 東京に来る前、匂坂桜子は東京ではないところに住んでいました。そこは東京  
ほどには人がいないところでした。山の方だったかもしれない。いわゆる海

なし県、だったかもしれませぬ。昔、誰かがこう言いました。誰も端っこで泣かないように、海なし県は海なし県であるのだと。……本当かなあ。本当かどうか知らないけど、それなら、彼女が住んでいたのは海なし県ではなかったのかもしれない。なぜなら、彼女はよく県境で泣いていたから。

匂坂桜子は、自分は出逢いというものに向いていないと思っていました。何度やってみても当ては外れ、心は嘔み合わず、期待はすれ違つて、最後にはまた一人になりました。

孤独はたいてい手に余り、かといつて開き直れるほどには気持ちよく突き抜けても来ないのでした。彼女はその、帯にするには短い孤独を、少し切つてたすき掛けにしました。彼女は駅伝を始めました。子供の頃から今の今まで、彼女は一時も休むことなく走り続けています。そのたすきを受け取ってくれる人が、いつかきつと現れると信じて。

部屋着姿の桜子が、タオルで髪を拭きながら入ってくる。

桜子 あー疲れたー。

鳥 走つて走つて、彼女はとうとう東京にやつて来ました。

桜子 ねえ、疲れた。

鳥 私はずっと、沿道を追いかけて来ました。

桜子 なんか明日からずっと雨なんだって。嫌だなあ。雨降るとね、バスは結構遅れ

が出ちやったりして、お客さんも運転手さんもイライラしがちなんだよね。で

、たまに八つ当たりとかされちゃったりして。あれ、この話、前にもしたっけ

？ てか、雨、明日からっていうかも今日からか。

鳥 私だけはずっと、ひたむきに、彼女の味方だしようと思ひました。たとえ人間

が彼女を裏切り続けても。

桜子 ねえ、もう夜中だよ。

鳥 うん、そうだね。

桜子 こんばんはでしょ。

鳥 こんばんは。

桜子 ……トリ子はホント、おはようしか言わないね。

桜子、横になる。

桜子 ねえ、トリ子。トリ子はなんでずっとそばにいてくれるの？

鳥 それはだって、飼われて／＼

桜子 まあ、私が飼つてるんだけどね。

鳥 ……あとは、言葉が通じないからじゃないかな。言葉が通じないから、ずっと

一緒にいられるの。なんてね。

桜子 ねえ、トリ子。これからもずっと一緒にいてね。一人にしないでね。

鳥 ……ごめんね、桜子ちゃん。それは、できないよ、やっぱり。

桜子 ……。

鳥 私だけはひたむきに、彼女の味方でいようと思いました。でも、結局のところ

私も、彼女にとって何ら特別な存在ではなかったのかもしれない。桜子ちゃん。

私はあなたとうまくお喋りをすることができない。あなたがつらい時に、

おやすみと言ってあげることもできない。あなたからたすきを受け取ることが

できない。そして、私の時間はもう終わってしまふ。……ねえ、桜子ちゃん。

いっそ、私たちは出逢わない方がよかったのかな。あの、田舎の苔の生えたペ

ットショップで、私には子供のアナタと、目を合わせちゃいけなかったのかな。

それとも、私にははなから、今ここにいないという選択肢すらなかったのかな。

桜子ちゃん、私ももうすぐ、あなたの元からいなくなります。でも、それだ

って本当は最初から分かったはずだよ。ごめんね。私もあなたを助けられ

ない。

鳥、目を閉じる。桜子、起き上がる。

桜子 トリ子……。トリ子？

暗転。雨の音。次第に強まる。

## 九（ターミナル）

明転。ターミナル。雨が降っている。

泉と倉岡。倉岡は机に顔を伏せているが、やがて顔を上げて、

倉岡 ……泉ちゃん。

泉 何すか倉岡さん。

倉岡 俺のバンドが昨日解散した話、聞く気ない？

泉 ないです。

倉岡 三重出身のボーカルと福井出身のドラムが下北で泣きながら殴り合った話、聞

く気ない？

泉 ないです。

倉岡 喧嘩となったらやっぱりドラムって強いなあって話…。



泉 ないです。

倉岡 そう。

泉 はい。

倉岡 ……やれることはやったんだけどなあ。なんかさ、言い訳というかさ、出口戦  
略みたいなのは自分の中で作ってきたつもりだったんだよなあ。こんなもんだ  
ろとか、まあよくやったな、とかさ。それがまあ、いざ本当に終わってみると  
未練たらたらなんですな、これが。

泉 聞いてないですよ。

倉岡 そっか。

泉 はい。

倉岡 今更、実家帰れねえよなあ。最後におふくろに会ったのっていつかな。  
大変ですね。

倉岡 ま、まんさく尽きましたわな。

泉 ……まんさく？

倉岡 ん？

泉 まんさくって誰ですか……。

倉岡 まんさくは……だから、中国の偉い人だろ。

泉 ……あ、いるんですね……。へえー。

倉岡 まあ、もう死んでるけどね。

泉 あ、死んでるんですか……。

倉岡 だから「尽きた」って。

泉 ……はー、知らなかったですけど、あれ、ばんさくって読むんですよ。

倉岡 え、ばんさく？

泉 はい。

倉岡 え、じゃあまんさくさんは？

泉 知らないです。

倉岡 死んでないの？

泉 死んでないです。

倉岡 ……へえ、あ、良かった……。

泉 倉岡さん……。

倉岡 オーケーオーケー。先に言っておくけど、馬鹿って言った方が馬鹿だからな。

泉 何も言っていないじゃないですか。

倉岡 予約だよ予約。

泉 予約ってなんですか。

倉岡 だから「馬鹿って言ったら馬鹿」の予約だよ。

泉 だからそれはなんなんですか。

倉岡 だから、分かりやすく言うと、こう、トラップカード「馬鹿って言ったたら馬鹿」を手札から出して、場に伏せてターンエンドだよ……。

泉 ……その例えがもう馬

倉岡 おいおいおいめくるぞ？ もうめくるぞ？ 言ったそばからめくるぞ？ トラップ発動するぞ？

新井場、登場。

新井場 おい、泉！

泉 はい？

新井場 お前、今日終わったら匂坂の家行ってこい。

泉 え？ なんで？

新井場 で、いるかいなとか、いたらどんな様子だとか、そういうの確認したらここに電話で報告しろ、俺いるから。分かったな。

泉 ちよちよちよ、え、私が？ なんで？

新井場 女の先輩じゃないと駄目だろ。

泉 いや、てか、なんで行くの？

新井場 一週間も来てないんだぞ。

泉 いやいや、バイトが突然来なくなるなんて普通だから。

新井場 何かあったらどうするんだよ。

泉 別に何もありませんよ。

新井場 あったらどうするんだって。

泉 だから、それは新井場さんが何か言われたら面倒なことですよ。だったら自分で行ってくださいよ。てか、仕事終わりってそれ、バイト代出るんですか？ そもそも一人減って既に迷惑してるんですけどね。ていうか、新井場さんなんですんな上からなんですか？ そんな感じで言われる筋合いないと思うんですけど。

新井場 ……泉。お前そんなだからどこにも雇ってもらえないんだよ。

泉 は？ それ今関係ありますか？

新井場 俺が前いた職場は、社員もバイトもみんな汗水たらして一生懸命働いてたよ。苦しい時は助け合って、ミスはフォローし合ってって、そういう職場だったよ。中にはたくさんあるんだよ。別に楽しみたいなら勝手にすればいいけれども、そうこうしているうちに、何より人間性みたいなものがどんどん縮んで駄目になっていくから、その辺は分かっただけがいいよ。人間性はね、いくら面接とかで隠したつもりでも絶対バレるもんだから。残念だな。

泉 ……え？ でも新井場さんって、前の職場降ろされたんですよね？

新井場

……なに？

泉

いや、だから、電車からバスに飛ばされたんでしょ？ その方向で来る人って普通は社長とか偉い人になるんじゃないんですか？ なんでヒラで、しかもこんな東京の隅っこのバス停で働いてるんですか？ 普通に脱落したからじゃないんですか？ バスって、東京―大阪間でざっくり電車の3倍かかりますけど、新井場さんの人生も、それくらいスピードダウンしたってことじゃないんですかね。まあ、それは別にいいんですけど、とりあえず前の職場アピールするのはやめてもらっていいですか？ 私まで惨めになるんですか。え、てか、なんで捨てられた職場をそうやって笠に着れるんですか？ プライドないんですか？ それとも気づかないでやってるんですか？

倉岡

泉ちゃん、いいよ、もう。

新井場

泉、お前、いい加減にしとけよ。

泉

新井場さん。奥さんとは上手くいってますか？

倉岡

泉ちゃん……。

泉

奥さんも、旦那がこんなことになるとは思ってなかったんじゃないですかね。大分がっかりしてるんじゃない……

新井場、泉を突き飛ばす。

倉岡

新井場さん……それはないっすよ。

新井場

うるさい。

倉岡

うるさいじゃないよ……。泉ちゃんもさ、もうやめようよ。

泉

……やめますよ。バイトも辞めさせてもらいます。

泉、奥の部屋へ出て行く。

新井場

勝手にしろ。

倉岡

ちよっと、泉ちゃん……。

倉岡、追って奥の部屋へ出て行く。新井場は外へ出る。

#### 十（桜子の家）

向井、登場。桜子の家。かごの中には鳥がいる。

※一人二役

向井 (周囲の状況を確認しながら) 本日はお日柄も悪く、足元も悪く、鍵もかかっていない中、ご列席賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。……日当たりも、風通しも悪い、狭い部屋ではございますが、皆様方におかれましては、どうぞごゆっくりと、おくつろぎいただければと存じます。……本日のお料理は、最寄りのコンビニエンスストアから直送いたしました、新鮮な冷凍食品をご用意いたしております。……掃除の至らぬ点もございますが、今後もご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。……こんにちは。私は向井と言う者です。あなたは、名前はなんて言うの？

鳥 トリ子です。向井さん、初めまして。お名前は存じています。

鳥 鳥さんは、桜子ちゃんに飼われてるの？

鳥 トリ子です。はい。もう十何年も。

鳥 綺麗な羽根ね。

鳥 昔はもつと綺麗でしたよ。

鳥 ねえ、鳥さん。

鳥 トリ子です。

鳥 元気なの？

鳥 はい。もう寿命です。ずっと前から分かっていたことです。

鳥 そんな籠の中で、狭くない？

鳥 もう慣れてしまいました。向井さん、向井さんはどうですか？

鳥 ……。

鳥 狭いですか？

鳥 おはようしか言えないんだね。

鳥 ……。

鳥 私、帰るね。

鳥 もう？

鳥 私ね、言いつけられて来ただけなんだ。匂坂さんは家にはいませんでした、って報告すればいいだけだから。じゃあね。

鳥 向井さん。

鳥 ……。

鳥 本当ですか？ 向井さんは本当に、言いつけられて来たんですか？

鳥 ……。

鳥 向井さん。初対面の方に不躰なお願いで恐縮なのですが、匂坂桜子を助けてやってはくれないでしょうか？ 私の飼い主に、手を差し出してやってはくれないでしょうか？ 向井さん、残念ですが私にはそれができません。どうか私の代わりに、匂坂桜子を見守っていてくれないでしょうか？

向井 ねえ、鳥さん。元気がないんだったら、無理して鳴くことないよ。

鳥　でも、ここぞという時ですから。

向井　ねえ。あなたがどんなに鳴いても、私に桜子ちゃんは助けられない。人は人を救えない。心は通わないし、期待には沿えないし、会えば傷つけ合うしかない。そういうふうが決まっているの。ずっと前からずっと後まで。

鳥　向井さん、私、そんなことないと思います。今は悪い流れの中にいるだけです。それはいつだって反転させることができます。今ここから好循環を始めるんですよ。回転の方向を逆にするんです。それは、この世界にいる誰かが最初にやらなきゃいけないんです。そしてそれはきっと、ここに来てくれたあなたと、そして匂坂桜子であるべきです。

部屋着姿の桜子、コンビニのレジ袋を持って登場。

桜子　向井さん……。

向井　桜子ちゃん。

桜子　え……どうして、いるんですか？

向井　ごめんなさい。鍵、開いてたから、入らせてもらっちゃった。

桜子　あ、そうですか……。あの、すみません、今まで連絡もしないで、シフトとか……。

向井　シフトは別にどうだっていいけど。

桜子　こんな汚い部屋ですみません……。

向井　あ、なんか、ごめんね。

桜子　いえ、こちらこそ……。

向井　こちらこそ？

桜子　あ、いや……。

向井　死んでるかと思った。

桜子　え、いや、そんな。

向井　まあ、よかった。

桜子　はい……。

向井　（インコの方を見て）この子。

桜子　……もう寿命みたいですよ。

向井　そうなんだ。

桜子　あの、何故だか分からないですけど、私、この子だけはずっとそばにいて、ずっと私の話を聞いてくれると思いい込んで、だから死んじゃうのが本当に信じられなくて、あーこれで本当に一人になっちゃうなあって思ったたら、もうなんだか、よく分からなくなっちゃいました。そしたら凄く落ち込んだりして、落ち込むだけ落ち込んだら今度は気が抜けちゃって、今はなんだか変な感じですよ。

向井 そっか。

桜子 ずーっと、こんな感じで続いていくんですかね。

向井 なのかな。

桜子 私、別に、何がしたいから東京に来たわけでもないんです。ただ、人がたくさ  
んいるかなと思っただんです。たくさんいれば、いつか、その、いい出逢いがあ  
るかなって思っただんです。でも、あんまり変わらないみたいですね。結局は同  
じことの繰り返しです。

向井 うん。そっか。

桜子 人は本当に多かったですけど。

向井 ね、多すぎだよね。

桜子 はい。でも結局、余計寂しいばかりで。

向井 ……こんなこと言っても別になんにもならないと思うけどさ、みんな寂しいん  
だよ。

桜子 みんな寂しい。

向井 うん。そう。みんな寂しい。

桜子 なんて、みんななのに寂しいんですかね。

向井 ん？

桜子 みんななら寂しくないと思うんです。だって、みんなだから。

向井 ……じゃあ、みんなじゃないのかな。

桜子 みんなが寂しいんですかね。

向井 うん……。

桜子 みんな寂しいんじゃないやなくて、みんなが寂しい。

向井 うん……うん？

桜子 あれ、一緒？ 一緒ですかね。

向井 (笑って) どうなの？

桜子 違うんです。いや、違くないのかな……。みんなが一人一人寂しいんじゃない  
で、みんなはきつと、かたまりで寂しいんです。みんなはみんなとして寂しい  
んです。周りをいくら見渡しても、他のみんながいらないんです。みんなは、い  
つも一人なんです。だから、ちよつとやそつとじゃ何も変わらないのかなって  
。

向井 ……ふーん。

桜子 分かります？

向井 分かったかどうか分からないけど、でも、桜子ちゃん、いい子過ぎるのかなっ

て思ったかな。よく分からないけど。

桜子 そうですか。

向井 うん。  
桜子 向井さんも。  
向井 うん？  
桜子 来てくれて、話を聞いてくれて、ありがとうございます。  
向井 いや、別にそういうんじゃないから。  
桜子 助けられました。  
向井 うーん。  
桜子 人に人は助けられないですか？  
向井 基本的にはね。  
桜子 そうですか。  
向井 でも、助けられることもあるって信じたかったのかなあ。  
桜子 そうなんですか？  
向井 だって、来ちゃったしね。  
桜子 ……ありがとうございます。  
向井 やっぱ駄目駄目。だって、ちょっとやそっとじゃ何も変わらないんだもんね。  
桜子 ……そうですね。  
向井 そんなに簡単なことじゃないよ。  
桜子 ……簡単なことじゃなかったんですか？  
向井 ん？  
桜子 あ、すみません。  
向井 ……そうね。まあ、生きてりゃ誰でもトラウマの一つや二つ、ありますわな。  
桜子 そうですね。  
向井 え？  
桜子 まあ、でも感謝されて悪いこともないか。  
桜子 ……はい。  
向井 私、帰ろうかな。  
桜子 あ、はい。  
向井 ごめんね。勝手に入っちゃって。  
桜子 いえ、そんな。  
向井 桜子ちゃん、バイトどうするの？  
桜子 もうクビじゃないですかね。  
向井 新井場ぐらい言いくるめてあげるよ。  
桜子 どうしましょう。  
向井 まあ、でも嫌か。

桜子 うーん。もうちょっと頑張ろうかなって気もしています。

向井 一回復讐しといたら？

桜子 復讐？

向井 うん。みんなに。

桜子 いや、それは……復讐ってなんですか？

向井 さあ。

桜子 ……考えておきます。

向井 ホントに？

桜子 ええと、はい……あ、でも。

向井 何？

桜子 この子が死んだら、どこかに埋めに行かなくちゃいけないって。

向井 そっか。

桜子 地元に戻って埋めようと思います、バスで行って。だから、わがままですけどもうちょっと休ませてください。もし戻って来れた時は、その時は、また一からやり直そうと思います。

向井 そっか。

桜子 また、一から出逢い直してみようと思います。

向井 ……うん、分かった。

桜子、向井、退場。

十一（ターミナル）

志賀、泉、登場。ターミナル。

志賀 先輩、辞めちゃうんですか？

泉 そうね、言っちゃったしね。まあ、今週いっぱいかな。決まってるけどこまではちゃんとやるよ。

志賀 先輩って、意外と律儀ですよ。

泉 そういうところはちゃんとするの。

志賀 そうなんです……。

泉 何？

志賀 なんか、意外としんみりしません？

泉 え？ そう？

志賀 はい。

泉 ……バスケ部、弱かったね。



志賀 はい。

泉 私が三年で、志賀君が一年で、どっちもビックリするくらい弱かった。

志賀 でも二年は強かったですよ。男も女も。

泉 私の一個上も強かった。

志賀 僕の一個下も強かったですよ。

泉 なんでなんだろうね。顧問も一緒だし部員の数も同じくらいなのに、なんでこんなに差がつくんだろうって、当時はそれが不思議で不思議で、凄く悔しかったなあ。

志賀 僕もです。

泉 何かを半分に分けた時、必ず駄目な方にいるタイプっているんだよ。部活でも人間関係でも。

志賀 受験でも。

泉 ……就活でも。

志賀 はい。

泉 志賀君、勉強してる？

志賀 本当はしないとイケないんですけどね、二浪だし。

泉 大変だよな。

志賀 二浪もするとね、いろいろ変な感じになってくるんですよ。兄妹同時受験とか。

泉 あーそうだよな……え、志賀君そうなの？

志賀 妹が二個下なんですよ。

泉 うわ、きつつ。知らなかった。

志賀 肩身狭いですよ。こっちが気にしてるだけかもしれないですけど。

泉 そっか。

志賀 はい。

泉 今思えばさ、中学時代は気楽だったよ、ホント。

志賀 先輩、僕に告られたの覚えてます？

泉 覚えてるよー。なんで私みたいな終始不機嫌なのになって思ったよ。

志賀 中学生男子はそういうのが好きなんです。

泉 人によるでしょ。

志賀 そうですかね。

泉 ……ちなみに、今はどうなの？

志賀 今は全然好きじゃないですよ。

泉 あっそ。

志賀 はい。

泉 いや別にいいけど、話振ってくるからさ。

志賀 いや、違うんですよ。

泉 違うじゃないでしょ。

志賀 僕は多分もう、僕と出逢う人は好きになれないです。

泉 何それ。

志賀 だって、僕と出逢う人なんて、所詮はその程度の人間ってことじゃないですか。

泉 私もってこと？

志賀 はい。

泉 そう。

志賀 はい。

泉 分からなくもない。

志賀 ありがとうございます。

泉 でも、じゃあどうすんの？

志賀 どうしましょう。

泉 大変だね。

志賀 お互い。

桜子、登場。

泉 あ。

志賀 匂坂さん……。

桜子 すみません。ご迷惑お掛けしました……。

志賀 いや、まあ……大丈夫だったんですか？ なんか、分かんないですけど。

桜子 はい。

志賀 なら、まあ、良かったですけど……。

桜子 あの、けっこう無断で休んでしまったんですけど、できたらまたここで働きたいなと思ってます。

志賀 え？ あ、それはそれは……。いや、でもまあそれは、新井場さんがいる時に言ってもらった方が……。

桜子 あ、でも、ちょっと地元に戻る用事があるので、あと何日か休ませてください。

志賀 え？

桜子 ここから夜行バスで帰ろうと思ってるんです。

志賀 いや、それは、どうなんですかね……。

桜子 あと……。

志賀 なんですか？

桜子 ええと……。

志賀 ……え、忘れちゃいました？ なんの話ですか？

桜子 いや、違うんです。どうしようかな……。ええと……（おもむろに新聞紙を手  
に取る）。

志賀 ん？ なんですか？

桜子、丸めた新聞紙で、志賀と泉の頭を引っぱたく。

志賀 え？

泉 は？

桜子 すみません！ 失礼します！

桜子、退場。

志賀 びっくりした……。

泉 いやいやいや、何今の？ は？

志賀 なんだったんですかね。

泉 いや殺すでしょ（近くにあった誘導灯を逆さに掴んで出て行こうとする）。

志賀 泉さん泉さん、いったん落ち着きましょう。殺しちゃだめですよ。

泉 いや、おかしいでしょ、こんなの。

志賀 いや僕もよく分からないですけど、とりあえず外はお客様とかいるから、誘導

灯とかそんな感じで出ちゃ駄目ですよ……。

泉 いやいや関係ないっしょ。辞める前に殺さないよ。

志賀 泉さん！

志賀が泉を抱きしめる格好になる。すぐ離れる二人。

志賀 すみません……。

泉 ……馬鹿。

倉岡、向井、登場。

倉岡 ちよつとちよつと！ 今通り魔いたんだけど。

志賀 通り魔？

倉岡 通り魔ってか、辻斬り？

志賀 辻斬り？

倉岡 いやだから、新聞紙でここ（頭）スパーンって。

志賀 だから匂坂さんでしょ？

倉岡 うん。

志賀 僕らもやられました。

倉岡 やっぱり？ え、どういうこと？

倉岡 クーデターですよ。

倉岡 クーデター？

泉 鎮圧します（再び出て行くこうとする）。

志賀 だから一回落ち着きましようって。あ、向井さんもやられたんですか？

向井 いや、私は……免除？

志賀 え？

泉 何で？

向井 さあ。

倉岡 向井さん、何か知ってることありますか？

向井 知ってること？

倉岡 はい。

向井 知ってること……。あの、夜行バスって一番足がつかない乗り物らしいよ。駅や空港はカメラだらけだし、車はレンタカーでも絶対足がつくけど、夜行バスは本名使わないで乗っちゃえば、どこに行ったか絶対に分からないんだって。だから、逃亡する時は夜行バスがおすすめです。

……。。

倉岡 あ、もしかして知ってた？

志賀 いや……知らない、というか知ったこっちゃやないです……。

向井 あれ、何か違った？

志賀 違いますよ。

倉岡 まあ、ちよつとへえーってなったけど……。

志賀 てか匂坂さん、ここからバス乗るんですよね。

倉岡 え、そうなの？

志賀 もしかして、もう乗っちゃった？

倉岡 あ。

泉 絶対殺す（出て行く）。

志賀 ちよつと、泉さん！

全員、退場。

直後、バスが発車する音が一面に響き渡る。

十二(ターミナルなど)

その日の深夜のターミナル。

新井場、奥の部屋から登場。ユニフォームは脱いで、机の上を整理している。そこに、女5(桜子)が紙袋を持って入ってくる。

新井場 え？ え？ え？

女5 (小さく手を振る)

新井場 なんているの？

女5 なんて……来たから？

新井場 いや、だから、急用とか何か……。

女5 あ、別に何もありません。

新井場 え、ないの？

女5 え、何かあったつけ？

新井場 いや、俺が聞いてるんだけど。

女5 え、うん、ないと思う。あ、(紙袋を渡して)こちら差し入れになります。

新井場 ……あれ、あんまり職場には来ないでって言わなかったつけ。

女5 うん、ごめんなさい。

新井場 ごめんって……。

女5 でも、一回くらいは見学させてよ。まだ忙しい？

新井場 いや、まあバイトも帰ったし、今の時間は電話取ればいいんだけど。

女5 ちよっとだけ、ね。

新井場 ……大丈夫だよ、もう誰もいないし。座りなよ。コーヒーとか淹れようか？

女5 一応給湯室あるんだけど。

新井場 あ、一応コーヒーもね(紙袋からビニール袋を取り出す。缶コーヒーが2本入っている)。一応私のも。

新井場 ……ありがとう。

2人、缶コーヒーを飲み始める。

女5 ここ来る前にいろいろ調べてみたんだけどさ、今バスって凄いなだね。もう日本中どこへでも行けちゃう感じだよ。USBとか、温泉直行とかさ。あー、温泉

泉行きたいなあ。温泉って最後に行ったのいつだったつけ？

新井場 ……。

女5 ねえ、温泉。草津だったよね？

新井場 ……。

女5 箱根も行ったっけ？  
新井場 なあ。  
女5 何？  
新井場 後悔してるか。  
女5 私が？ 何を？  
新井場 俺と結婚したことだよ。  
女5 なんて？  
新井場 だって、こういう感じのつもりじゃなかったでしょ。  
女5 別に、なんのつもりがあつたわけでもないけどね。  
新井場 しょうもない職場だろ。  
女5 そんなこと言ったら他の人に悪いでしょ。  
新井場 俺は立場上、ぶつちぎりで惨めなんだよ。  
女5 ふーん。そうなの？  
新井場 ……なんと言うかさ、お前は俺と知り合ったのが運の尽きだったよな。  
女5 どういう意味？  
新井場 だって、こんなの言わばクラッシュみたいなんもんだよ、出会い頭で（ドーン）。  
女5 何それ、出会い頭の出逢いってこと？ なんかわらない？ あの、言っておきますけど、私だってちゃんと考えた上で決めましたから。  
新井場 でもさ、日本中、隈なく見て俺にしたわけじゃないでしょ。それはやっぱりどうしようもなく運不運があるってことなんだよ。  
女5 うじうじしてるなあ。  
新井場 だから事実としてそうでしょう。俺はね、運の悪い方だったんだよ。ごめんな。  
女5 ……私はね、隈なく見たよ。日本中っていうか世界中ね。  
新井場 ……。  
女5 だから、人類七十億でしょ。男はざっくり三十五億でしょ。うーん、だいたいチェックしたんじゃないかな。  
新井場 ……。  
女5 で、一番だったからあなたに決めたの。  
新井場 ……そっすか。  
女5 いつだって、前には進んでるものだよ。また頑張ればいいじゃん。  
新井場 ……やっぱり、ちゃんとコーヒ―淹れよう……。  
女5 いいっていいって。  
新井場 いや、淹れる。すぐ作るから、待ってて。

新井場、奥の部屋に退場。

電話が鳴り出す。少しの間の後、女5がおもむろに電話の受話器を取る。(以下、女6、女7、女8、女9は全て(桜子))

女6 もしもし。

倉岡 おう、オレオレ。

女6 はい？

倉岡 オレだつて。オレオレ。

女6 ……オレオレじゃないでしょ。何、詐欺なの？

倉岡 詐欺じゃねえよ。声で分かんたろ。

女6 ほら、詐欺の人ってみんなそう言うんだから。

倉岡 めんどくせえな。

女6 大丈夫？ 生きてる？

倉岡 生きてるから電話してんだよ。

女6 そういふことじゃなくて。あ、バンドは？ どうなの？

倉岡 まあ、ぼちぼち。

女6 何よぼちぼちつて。全然連絡も寄越さないで。

女7 もしもし。

志賀 もしもし？

女7 あ、私。

志賀 うん、なんかあった？

女7 いや、別に何があったつてわけじゃないんだけど。

志賀 え、そうなの？

女7 なんか、最近顔見てないなと思つて。

志賀 うーん、まあ、そうかな。

女7 同じ家に住んでるのに。

志賀 時間合わないからね。

女7 バイト終わった？

志賀 今終わったよ。

女7 そっか。

志賀 うん。

女7 ……ねえ。

志賀 ん？

女7 お兄ちゃん、元気？

志賀 ……うん、元気だよ。

倉岡 あのさあ。

女6 何？  
倉岡 5万貸してくんね。  
女6 ほら、やっぱり詐欺じゃない！  
倉岡 詐欺じゃねえって。  
女6 詐欺じゃなかったらなんでそんなに要るのよ。あんたバイトは？  
倉岡 してるけど、要るときは要るんだよ。  
女6 なによその物言いは。  
志賀 なんかさあ。  
女7 何？  
志賀 ごめんな。  
女7 なんで？  
志賀 なんか、気使わせちゃってるよな。  
女7 そんなんじゃないよ。  
志賀 今日も塾？  
女7 うん、まあね。  
志賀 頑張ってるな。  
女7 うん……ねえ、お兄ちゃん。  
女8 泉さん。  
泉 はい。  
女8 それでは、明日の二時にロビーに集合してください。  
泉 あ、はい。  
女8 次回が最終面接という形になりますので。  
泉 ……分かりました。  
女7 今度、ご飯つれてってよ。  
志賀 ご飯？  
女7 おごって。バイトのお金で。  
志賀 うーん。  
女7 駅前においしいお店できたの、知らないでしょ。  
志賀 あ、そうなんだ。  
女7 イタリアン。  
志賀 うん……分かった。いいよ。  
倉岡 じゃあ切るわ。  
女6 待ちなさいって。今度いつ帰ってくるのよ。  
倉岡 分からんよ。  
女6 今決めなさい。  
倉岡 え？ じゃあ盆。盆盆盆。



女6 お盆なんて過ぎたばかりじゃない。何よボンボンって、爆弾みたいな言い方して。ちゃんと帰ってきなさいよ。

倉岡 分かったって。

女7 楽しみにしてるから。

志賀 分かったよ。

女8 それでは、お待ちしていますね。

泉 ……よろしくお願いします。

向井が現れ、女9に語りかける。

向井 ねえ、トラウマって知ってる？ 虎柄のお馬さんのことじゃないよ。トラウマっていうのは、いつまでも消えないつらい思い出のことで、人は生きていく中で、時々それを拾っていくの。でもね、トラウマの逆はないの。分かる？ つまり、いつまでも消えない幸せな思い出はない。幸せな思い出は、いつかは消えちゃうものなの。だからね、きっとこの世界には不幸だけがどんどん増えていく。加速度的に増えていって、高止まりして、私はきつとその中で息がでなくなっていく。

女9 ……なんか、大変だね。

向井 ねえ、私はどうすればよかったんだろうか。どうすれば、いろんなことがうまくいったんだろうか。どうするのが、正解だったんだろうか。

女9 それは私に聞かれても。

向井 あなたとお話してみたかった。

女9 してるよ。

向井 してるね。ホント、ずるいんだよなあ。

女9 ずるくないよ。

向井 私とあなたはどんな話をしたんだろう。デリケートな恋の話とか、したのかな、意外と。

女9 じゃあ、しようよ。

向井 できるの？

女9 うーん。

向井 でしょ。

女9 うん。

向井 前を向くには、まだまだ時間がかかると思う。人に話せるのも、ずっと先のことだと思う。あなたにできたことが、まだこの手の中にたくさん残ったままなの。

女9 ……トラウシ！

向井 え？

女9 トラウシ。トラウマの反対はトラウシだよ。虎柄の、お牛さん。

向井 トラウマはお馬さんじゃないんだけどな。

女9 トラウマの反対は、まだ見つかってないだけだよ。見つからないというか、まだ来てないだけ。だって、お牛さんはゆっくり歩くでしょ？ でもその分、お馬さんよりたくさん運べるから。って、どう？

向井 ……だといいなあ。

女9 また、どこかで会えるかもしれない。

向井 どうかなあ。

女9 会えるよ。だから、ちよつとだけ笑ってて。

向井 ……うん。

暗転。

### 十三（某バス）

暗闇の中、桜子を呼ぶたぐさんの声が聞こえる。「匂坂さん」「匂坂」「桜子ちゃん」「桜子さん」「桜子」「匂坂桜子」「さっさ」「おい」「お前」……。

奥田 桜子さん。

明転。奥田（新井場）が夜行バスを運転している。残りの役者も全員がバスに乗っている。

桜子 ここは……。

奥田 バスです。

桜子 バス？ あ、そうか、乗ったんだ。

奥田 はい。今宵は私がワンマンでお送り致します。運転手の奥田でございます。

桜子 ……奥田さん！

奥田 はい、その日出る夜行バスの半分には乗っているとされている働き盛りの奥田です。

桜子 奥田さん……。

奥田 ……どうぞ、お見知りおきください。バスをよくご利用されるなら、またどこかでお会いすることもあるでしょう。あ、でも人違いしないように気を付けてくださいね。バスの運転手ってほしいこんな顔ですから！

桜子 テンション高い……。

奥田 いやー、たまに、びっくりするようなイビキの人居ますよね……。

桜子 ……なんですか、いきなり。

奥田 今のですか？ 夜行バスあるあるです。

桜子 あるある？

奥田 よかったら覚えて帰ってください。

桜子 ……どういうあれですか？

奥田 あ、今バス業界ってとんでもない過当競争なんですよ。どこの会社もあの手この手でね、席にカーテンつけるとか、毛布置くとか、タダで水を配るとかまでしてるんですけど、私どもの会社はそういうサービスの一環として、あるあるを差し上げてるんです。

桜子 あの、ちよつと意味がよく……

奥田 いやー、トイレの付いてないバスに乗った時に限って、お腹、壊しますよね。

桜子 トイレ？

奥田 このあるあるも差し上げますよ。お代は結構です。

桜子 あの、ちよつといいですか。

奥田 あ、バスって、渋滞とか事故があると遅れるじゃないですか。それで何が困かって言うと、そりゃ到着時間が遅れるのはもちろんなんですけど、意外と困るのが、休憩のタイミングがズレて、止まるサービエリアがもの凄くしょうもないところになるっていうね、いや、ここ自販機しかないじゃん！なんか汚いし！みたいなね。

桜子 ……えーと、

奥田 これ分かる人には分かるあるあるですね。

桜子 あの、すみません。

奥田 あと、これ本当に腹立つんですけど、今って割と席にコンセントついてて、だいたいみんな携帯の充電器とか差してるんですけど、たまにね、市販？の変な格好いい充電器差してて、それが電気通ると赤く光るやつで、消灯して真っ暗な中でピカピカピカピカ光ってて、え、なんでそれ持ってきた？ え、馬鹿なの？ 今夜は寝かさなの？

桜子 すみません！

奥田 はい。

桜子 そんなに喋って大丈夫ですか？

奥田 大丈夫ですよ。どこ走ってるかなんて知りませんから。

桜子 ええ？ あの、今、何時ですか？

奥田 時刻は午前三時五十九分です。

桜子 いつの間に……。

奥田 いやー、バスで寝るのに慣れてないと、割と変な夢見るんですよえ……。

桜子 はい？

奥田 これも、あるあるです。

桜子 ちよっと、今ここどこですか……（窓のカーテンをめくる）。うわ、眩しい……え、どこ……？

（泉） おいおいおい！ カーテン開けんなって。

桜子 あ……すみません。

（志賀） ちよっとの光でも、気になるんですよ。

桜子 はい、気を付けます……。

（倉岡） （奥田に）ちよっと、休憩まだ？

奥田 もうすぐ休憩ですよ。

桜子 どのサービスイリアですか？

奥田 次はですね、銀河ステーション、銀河ステーション。

桜子 ……え？

奥田 ねー、いよいよ何がなんだか分からないでしょう。

桜子 はい……。

奥田 その次は白鳥の停車場です。

桜子 ……白鳥？

奥田 ご存じですか？ 銀河鉄道の夜。

桜子 銀河鉄道？

奥田 いい話ですよね……。子供の頃、何度も読み返しましたよ。漫画も読んで、アニメにもハマって……。まあ、さしずめ、これは銀河バスの夜ということではないんじゃないでしょうか。

桜子 乗るバス間違えたかな……。

（泉） え、てかまだ着かないの？ 今何時？

奥田 ただいまの時刻は午前三時五十九分です。

桜子 ……あれ、進んでない？

奥田 桜子さん。

桜子 はい。

奥田、立ち上がる。全然運転する気がない。

桜子 いやいや……ええ？

奥田 （先生のように）ほんとうのさいわいとはなんでしょか。

桜子 なんですか？ いきなり。

奥田 これは難しい問題でしたね。では桜子さん。

桜子 はい。

奥田 人は一生のうちに何人に出逢えると思いますか？  
桜子 何人？

(泉) え、何百人とかかな。

(志賀) いや、千は軽く行くでしょ。

(泉) 行かないよ。

(倉岡) でもさ、例えば同級生だけで何人いるよ。

(泉) 同級生ってだけで全員出逢ってるとは言えないでしょ。

(倉岡) いや、そこは一期一会じゃん。

(志賀) じゃあ、出逢うの定義は？

(泉) それも含めての問題なんじゃない？

奥田 (指名) 桜子さん。

桜子 ……えーと……(五本指を広げて) これくらい？

(泉) ……いやー、それでも多いな。

(志賀) いや、少ないでしょ。倍はいくでしょ。

(泉) それはだから定義がさあ……

(倉岡) いや、でも定義も何も……

奥田 桜子さん！

奥田、桜子に近づき、桜子が広げた五本の指を握り返す。

桜子 あ……。

奥田 時刻は午前三時五十九分です。

桜子 まだ……？

奥田 桜子さん。夜になれば起きている人間はどんどん減っていき、明け方、ある時を境にまた増え始める。その変わり目は、おおむね午前四時と言われているそうです。だとすればその一分前、午前三時五十九分こそは、起きている人間が最も少ない時間の一つと言えるのかもしれない。最初の目覚まし鳴り出す直前、一日で一番、寂しい時間です。

桜子 はあ。

奥田 桜子さん。でもね、本当はこの世はずーっと、午前三時五十九分なんです。

桜子 ずっと……？

奥田 このバスに乗っているのは我々だけなんです。

桜子、辺りを見回す。

(倉岡) ま、そういうことだよ。ね？

(泉) なんじゃない？

(志賀) です。ね。

桜子 はあ……。

(倉岡) いいか、桜子。

桜子 はい……。

(倉岡) それでも、お前は目を覚ましていないといけない。

(泉) ずっと、このまま、走り抜けなきゃいけない。

(志賀) 僕たちは、どこまでも一緒に行くんですよ。

奥田 桜子さん、分かりますか？

桜子 ……分かります。

奥田 よろしい。

桜子 ……あの、とりあえず、今この状況からはどうやって目を覚ましたらいいんですか？

奥田 今？

桜子 だってこれどう考えても……

鳥 (桜子に) おはよう！

桜子 あ。

鳥 おはよう！ おはよう！

(倉岡) おいおい誰だよ、鳥持ち込んだの。

(泉) え、何鳥？ インコ？

鳥 おはよう！ おはよう！

(志賀) この鳥、おはようしか言わないんですね。

鳥 おはよう！

桜子 ……おはよう。

奥田 ああ、夜が明ける……。

暗転。

#### 十四 (ターミナル)

電話の音。明転。ターミナル。志賀が電話を取る。倉岡と女10 (泉) が椅子に座っている。

志賀

はい西東京。あ、奥田さん、お疲れ様です。奥田さん、今日はなんですか？

……いつもの？ 奥田さん、ここバーか何かだと思ってませんか？ バーじゃないですよ。え、何分遅延ですか？ あ、十分遅延がいつものなんですか？

そこまでは知らなかったですね。え、五分遅れは、酔いたい気分の時の遅延？  
ちよっと何言ってるか全然分からないですけど……ええと、奥田さん今日どこ  
でしたっけ？ え？ あ、盛岡。はい、了解です。安全第一で、はい、はい  
。……（女10に）ま、こんな感じかな。遅れの時は人の名前、便の名前、ど  
れぐらい遅れるか、あとまあかかってきた時間は書いておいた方がいいかな。  
はい。

女10

まあ、今みたいになんか変な人もいるけどね。

志賀

はい。

女10

……大丈夫？ 聞いている？

志賀

聞いてますよ。

あ、そう。ならいいけど……。あとはね、ええと、ここにバイト三人いるのは  
基本おかしくて……

新井場、奥の部屋から登場。

新井場

倉岡！ またサボってるだろ！

倉岡

あーバレた。ごめんなさいごめんなさい。今行きますよ。

新井場

何度も言わせんなよホント……。

倉岡

はいはいはい。

倉岡、退場しかける。と、入って来た私服姿の桜子と鉢合わせる。

倉岡

あ……。

桜子

こんにちは……。

女10

え、誰？

新井場

匂坂……。新聞紙を掴んで桜子に近づく。お前、今更何をこのこと……

倉岡

新井場さん。

新井場

なんだよ。

倉岡

ちよっと、お借りします（新井場の新聞紙を奪う）。

新井場

何をするんだ。

倉岡

おい、匂坂！

桜子

はい！

倉岡、桜子に新聞紙を手渡す。

桜子

え？

倉岡 新井場さんって、結局食らってないですよね？

新井場 は？ 何が？

倉岡 はいはい、分かりました。あの、もうちよつと前へ……。

新井場 なになになに、なんだよ。

倉岡 (桜子に) はい、どうぞ。

桜子 ……それじゃあ、失礼します！

桜子、新聞紙で新井場の頭を引っぱたく。ニヤニヤする倉岡と志賀。

倉岡 (志賀に) いったねー。

志賀 思ったより強かったですね……。

倉岡 やっぱり俺らとはホラ、度合いが違うから。

志賀 新井場さん、どうでした？

新井場 は、何？ これ、どういうこと？

女10 ……え、なにこの職場？

おわり